

## 水害で被災した日本の絵画、書跡の応急処置（初期対応）について

国宝修理装演師連盟 岡泰央 （2011.04.28）

〔はじめに〕

日本の絵画、書跡文化財の多くはその媒体として楮や雁皮、三桮そして竹等の植物繊維を原材料とする紙あるいは絹であり、その多くは楮紙等によって裏打ちが施されている。その仕上がりの装訂形態は様々であるが、基本的には澱粉糊を接着剤として裏打ち加工が施されているものが殆どである。また、彩色が施されている場合には動物性蛋白質である膠が膠着材として用いられているものが多い。基本的には、多くのものには水溶性の接着剤が用いられて裏打ちや着色が施されていること、様々な装訂形態のそれぞれには何らかの意味があり、絵画や書跡の保護の役割以上の存在であることを念頭において初期対応に臨むことが理想的だ。

〔被災時の記録〕

応急処置はあくまでも将来的な根本的修理を見据えた対応をすべきであることを考えて、被災時の記録をできる限り残すことは非常に重要である。本格的な修理を行うにもこの記録は後に役立つものとなる。

記録すべき項目は

- (1) 被災日時（分かる限りで）
- (2) 発見もしくは救出日時
- (3) 被災した状態の写真
- (4) 素材（紙、絹、板、漆喰、その他）
- (5) 装訂形態（掛軸装、卷子装、冊子装、屏風装、襖障子装、額装、未表装、その他）
- (6) 具体的な被災内容（浸水した、泥をかぶった等等）
- (8) おこなった処置

〔水害に遭った場合の具体的な処置〕

- ・安全で清潔な場所に移動をする
- ・箱に入っている場合は可能ならば開けて本体を外へ出す
- ・掛軸装や卷子装の場合で展開が可能な場合には、ゆっくりと本紙を傷つけないように慎重に平らな場所で広げる
- ・冊子については、各ページを安全に開けることが全部あるいは部分的にできる場合には、ページ間に清潔な紙を挟んで、できるだけ湿り気を取り除く
- ・毛布や吸水性の良い紙に包み、あるいはその上に置いて、風通しの良い環境を作ってゆっくりと乾かす
- ・少し湿り気がある手触りながらも、展開が不能あるいは技術的に危険であるという場合には、決して無理をせずに、風通しの良いところでゆっくりと乾燥させる（すでに乾燥してしまい、巻いた状態あるいは冊子の状態で展開が可能な場合も同様に無理をしない）
- ・乾いた状態で払い落とせる泥や土、汚れやゴミは、刷毛等を使って慎重に本体を痛めない程度に除去する
- ・安全な場所に移動して保管する

〔注意点〕

焦って無理に展開することは決してせず、乾燥をさせてカビ等による微生物被害を可能な限り予防することを初期対応の狙いとし、後の専門家による技術的な対応を待つべきである。

〔必要なもの〕

- ・湿り気をゆっくりと取り除く為の吸水性の良い紙や毛布
- ・処置後に管理する為の梱包資材（ハترون紙、薄様紙、段ボール、ポリエチレンシート等）
- ・可能であれば脱酸素材と封入する為の道具一式

(以上)